

6月議会
定例会

新型コロナウイルスワクチン接種状況

65歳以上予約率82%

6月議会定例会が6月8日から4日間にわたり開催され、上程された18案件について原案どおり可決されました。



行政報告

◆新型コロナウイルス
ワクチン接種状況

コロナワクチン接種は、65歳以上の町民を対象に5月15日から毎週土曜日、午後2時から5時に集団接種を実施しています。6月5日現在、電話での予約率は、1,166人で75%です。

これに、施設入所者・個別接種済みの方を加えますと1,274人となり、全体の予約率は82%です。接種状況は、1回目の接種を439人、

2回目の接種を113人終了しています。今後、森岳温泉病院付属山下医院の島田院長と大淵医師のご協力を得ながら、6月18日、25日、7月9日、16日の金曜日に接種日を4日追加し、7月末までに、希望する65歳以上の町民の方々の接種を確実に完了し、目途がつき次第65歳未満の方への接種を始める予定です。引き続き、ワクチン接種へ向けて取り組んで参ります。

◆新型コロナウイルス感染症
対策事業

商工観光部門におきまして、新型コロナウイルス感染症対策商業等持続化支援助成金につきましては、先にチラシ等で周知して、申請を6月1日より受付の開始をし、随時対応しているところです。

また、新型コロナウイルス感染症対策消費喚起助成金ですが、これは商工会から要望がありました商工会の「藤原町お買い得商品券事業」に応じたものでもあり、町といたしましては、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、町内の消費喚起を促すことを目的として助成するものです。

◆農林業関係について

今年の稲作は、5月10日前後から順調に代掻き作業が行われましたが、16日夕方から降り続いた雨により、一部水田の冠水や、用水路への泥の流入等の被害がありました。幸いにも多くの農家が田植え前であったことから、さほどの被害は出なかったようです。

その後の田植え作業は、平年並みに進み、5月末現在で大規模農家の一部分を残してほぼ植え付けを完了しており、生育も順調です。今後は天候等を考慮した適切な水管理により茎数の確保が図られるように、関係機関と連携しながら、情報提供に努めていきます。

今年度における米の生産の目安は2,218t、405.48haに対し、実際の主食米水稻に作付けは2,213t、399.72haとなっています。新型コロナウイルス感染症などによる需要の緩みから、飼料用米への作付転換を推進されている中で、当町の作付けは、45.27haほどに拡大されており、国の方針に沿った形となっています。

リンドウにつきましては、新規就農者及び既存農家の新しいほ場について、定植時期の降雨により、植え付けに若干の遅れがあったようです。

その後も度重なる降雨と低温が続いたことで、生育に遅れが出ているようですが、今後の気象状態を注視して、良好な生育になるような情報発信をしていきます。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、各種イベントの開催はいまだ自粛傾向にあり、切り花の需要が全体的に落ち込んでいることから、最需時期のお盆までにコロナ禍が収束しない限り需要量及び市場価格等に影響が出ることは避けられないと思われます。

生産側の対策としては、今後の生育状況を注視しながら、最も需要が多くなり、市場価格が上向きになる時期に、できるだけ出荷できるような技術指導並びに情報提供をしていきます。

町営大野岱放牧場における緬羊の出生頭数ですが、5月末日現在で120頭となっています。

今年も、昨年に引き続きコロナ禍の影響によるラム肉の需要減は予想されますが、卸業者との連絡調整を密にして、出荷数量を調整しながら町内消費も含めた販路拡大を視野にいった販売体制の整備を図って参ります。

林業関係では、5月16日の大雨及びその後の度重なる降雨により、林道、作業道の各所で路肩の崩壊や、落石等の被害が発生しています。

林道においては、粕毛林道の併用協定区間5.8km付近で、落石防止ネットが破損し、林道上に落石がありました。上部にはまだ、落ち切れていない岩石が残っており非常に危険な状態であることから、通行止めの措置を講じています。

また、小岳登山口までの粕毛林道、大